

第2章

会社における私たちの活動

トヨタは、「お客様第一主義」のもと、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる商品・サービスの提供を目指すと共に、環境保護・安全対策についても、世界トップレベルでの基準達成を追求しており、研究・開発・調達・生産・物流・販売・サービス等の各分野において、国内外で大胆な施策を展開しています。

私たちは、自らの職務遂行が全てこうした会社の活動につながっていることを自覚し、トヨタは「会社のため」あるいは「お客様のため」でも社会的ルール違反を許さないことを念頭におき、法令遵守に努め、緊張感を持って行動します。また、お客様のニーズの多様化や国際化の進展に伴う、世界最高レベルの技術の修得、世界最適調達・供給ネットワークの構築、環境基準や安全基準のクリア、お客様満足度の向上など、**多くの解決すべき課題に対し、果敢に挑戦していきます。**

第2章では、トヨタが行う具体的な事業活動に、私たちがどのように取り組むべきか、どのような点に留意すべきか、を述べています。

2-1. 法令遵守 …『社会的良識をわきまえて』

トヨタは、法令・社会規範・社内規則の遵守を徹底し、トヨタで働く人々の違法行為や規則違反行為には、厳正な姿勢で臨みます。その動機が、「会社のため」、「お客様のため」という職務遂行に関するものであったり、上司の指示によるものであっても、例外ではありません。

私たちは、職務遂行の全ての場面において、法令・社会規範・社内規則を遵守します。

【基本理念 第1項、第2項 参照】

2-2. 資産・機密の利用・管理 …『確実な資産保全と機密管理』

トヨタは、事業活動上、不可欠で非常に価値のある様々な有形^{※1}・無形資産^{※2}を持っています。従って、これらの資産を効率的に活用し、また、いつでも事業活動に利用できるようにしっかり管理し、紛失・盗難・不正使用等を防ぎます。

トヨタは、自社の営業秘密などの機密情報の保持・活用に努めると共に、第三者の資産・知的財産の不正使用や第三者の機密情報の不正入手は一切許しません。

私たちは、トヨタの資産・知的財産・営業秘密などの企業機密や個人情報の保護・管理に努め、第三者の資産・知的財産・機密情報などを適切に取り扱います。

【基本理念 第1項 参照】

※1 有形資産：土地・建物・施設・設備、製品・商品・仕掛品、OA機器、ネットワーク、事務用品、現預金・有価証券、法人カード等

※2 無形資産：特許権、商標権、著作権、意匠権、ノウハウ等の知的財産権や商品・技術情報、調達・営業情報、人事・経理情報、ソフトウェア（プログラム・データ）等

2-3. インサイダー取引 …『良識ある一般投資家として』

トヨタは、多くの価値ある内部（機密）情報を有しており、トヨタで働く人々がこれらの情報を利用して株式の売買等を行うインサイダー取引を許しません。

私たちは、インサイダー取引が多くの国で違法とされており、トヨタが築き上げた投資家、関係会社、取引先会社との信頼関係を損う行為であることを理解し、インサイダー取引を許さず、行ないません。

【基本理念 第1項 参照】

2-4. 安全性追求活動 …『交通事故死傷者ゼロの願い』

車の安全性の追求は、自動車メーカーにとって、常に最大の課題の一つであり、責任です。トヨタは、様々な条件下で高い安全性を発揮し、快適に使用していただけるトヨタ／レクサス車をお客様に届けられるよう、オールトヨタとして、取引先とも連携して、研究開発・設計・生産・品質管理・アフターサービスに励んでいます。また、ドライバーなど「人」への啓発活動や、「交通環境」整備にも積極的に取り組みます。

私たちは、お客様の立場に立ち、車の安全性を追求し、安心と信頼を提供します。

【基本理念 第3項 参照】

2-5. 環境保全活動 …『人と地球環境に配慮した車づくり』

トヨタは、地球的規模での環境保護の必要性を深く認識し、「クリーンで安全な商品の提供を使命とし、あらゆる企業活動を通じて住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組む」ことを宣言しており（基本理念 第3項）、「トヨタ地球環境憲章」と「トヨタ環境取組プラン」により具体的な方針・取組内容を明らかにしております。

トヨタは、環境問題を経営の最重要課題の一つと位置づけ、生産・使用・廃棄に至る自動車のライフサイクルの全ての段階において環境に配慮しています。国際的な環境規格への対応や環境総合評価を推進し、仕入先・販売店等とも連携して、「人と地球環境に配慮した車づくり」に全力をあげて取り組んでいます。

私たちは、各国・各地域トップクラスの環境対応を目指した取組みを行います。

【基本理念 第3項 参照】

2-6. 研究開発活動 …『お客様本位の車づくり』

トヨタは、「研究と創造」を通じて世界中のお客様のご要望にお応えする革新的、安全かつ卓越した高品質な製品・サービスを提供するため、国内外に研究開発センターを配置し、多数の創造性に富んだ研究陣を擁すると共に、トヨタグループをはじめ、各大学・研究機関等とも連携し、様々な分野での最先端技術の研究開発を強力に推進します。

トヨタは、研究開発を行うにあたり関係法令に違反すること並びに研究開発パートナーとの契約上の義務に違反することを許しません。又、第三者の知的財産を不正に使用する行為を許しません。

私たちは、お客様本位の車づくりを目指し、研究開発を推進します。

私たちは、研究開発パートナー等の関係先の立場を尊重し、相互の信頼関係を構築・維持するように努めます。又、関係先との契約上の義務を果たすことで相互の信頼関係の維持に努めます。

私たちは、研究開発および製品化にあたり第三者の知的財産を侵害することのないよう十分な注意を払います。

【基本理念 第4項 参照】

2-7. 調達活動 …『筋の通った、心の通った取引』

トヨタは、3つの基本方針に基づき、公正かつ効果的な調達活動を展開しています：

(a) オープンドアポリシーに基づく公正な競争

国籍・規模・実績の有無を問わず、オープンで公正かつ公平な参入機会を提供し、品質、技術、価格、数量、納期の確実性に加え、経営の安定性、技術開発力なども総合的に勘案して、調達先を選定します。

(b) 相互信頼に基づく相互繁栄

トヨタと調達先がイコール・パートナーとして相互研鑽と密接なコミュニケーションに努め、相互繁栄を図ることができる取引関係の確立を目指します。

(c) 良き企業市民をめざした現地化の推進

トヨタは、世界各国で地元の企業として地域社会に貢献できるよう、トヨタ／レクサス車の現地生産を進めており、部品・資材についても、現地調達を積極的に推進します。

私たちは、上記方針を念頭において、法令を遵守して誠実・公正な調達活動を実施します。

【基本理念 第1項、第7項 参照】

2

2-8. 生産・物流活動 …『お客様から信頼される車づくり』

トヨタは、お客様の期待に応えるため、高品質のトヨタ／レクサス車及び部品を生産し、効率的な供給に努めます。そのため、トヨタは、「世界最適供給ネットワーク」および「グローバルな物流ネットワーク」の構築に努めます。

また、トヨタ／レクサス車及び部品の国際競争力を高めるべく、世界各地域の特性に応じて更に進化させたトヨタ生産方式を開発し、働く人と環境にやさしい工場の実現を目指しています。

私たちは、製品に関する安全性や品質確保を心がけると共に生産・物流に関連する法令を遵守します。

【基本理念 第4項 参照】

2

2-9. 営業活動 …『お客様と販売店の信頼を得て』

トヨタは、以下の3つの考えに基づき、お客様の様々なご要望に迅速に対応できる販売・サービス体制の展開やそのために必要な販売店との相互信頼関係の構築と相互繁栄に努めると共に、公正な競争・取引を支持します。

(a) お客様第一主義

「お客様第一」の考えのもと、お客様のニーズに合った商品を開発し、商品の特性や需要層に応じたマーケティング戦略・販売手法を展開することにより、世界中のお客様の様々なご要望に即応できる販売・サービス体制の展開を図ります。

(b) 相互信頼に基づく相互繁栄

魅力あふれる商品ラインアップ、多様な店舗スタイルや販売手法、きめ細かな顧客・収益管理システムを開発・提供し、意欲ある販売店の販売効率や収益力の向上に寄与し、販売店との相互信頼関係の構築と相互繁栄に努めます。

(c) 公正な市場競争重視

自由貿易と市場競争を尊重し、世界各地域のお客様のご満足・ご支持を獲得するための大胆な販売戦略を展開すると共に、公正な競争・取引に努めます。

私たちは、上記の考えを念頭においた営業活動を実施します。

【基本理念 第1項、第4項 参照】

2 -10. 海外事業活動 …『グローバル社会から信頼されるグローバル企業を目指して』

今日、トヨタのあらゆる活動は、地球的規模(グローバル)で行なわれ、生産のみならず研究・開発まで、海外で幅広く行われています。しかし、世界は一樣ではなく、各地域で独特のルール・慣習等があり、世界の政治・経済状況も、急激かつ大規模に変動しつつあり、トヨタの事業活動を取り巻く環境は極めて流動的です。トヨタは、国際ルールや法令と共に現地の文化・慣習・歴史も尊重しつつ、現地経済の発展に貢献すべく、「グローバルかつローカルな」視点で事業活動を進めます。

私たちは、各国・地域および国際的な法令・ルールを遵守すると共に文化・慣習・歴史を尊重した海外展開を志します。

【基本理念 第1項、第2項 参照】

2 -11. 収益性向上活動 …『より強固な収益基盤づくり』

トヨタは、投資家や社会からの期待に応えるべく、様々な施策により経営効率の向上、収益の持続的拡大を図り、経営・収益基盤の強化に努めます。

トヨタは、国内外の各プロジェクトへの投融資に際しては、採算性検討も含め、十分に事前調査のうえで投融資判断をし、また、資金運用に際しては、安全・確実性を最優先とします。

トヨタは、適切な財務指標により、単独・連結ベースでの経営効率・収益体質の評価を行い、その継続的改善に最善を尽くすと共に、財務状況の公正かつタイムリーな開示と適正な納税に努めます。その一環として、子会社・関連会社に対しても適切な管理に努めます。

【基本理念 第6項 参照】